

学校図書館講座

「小学校司書に学ぶ読み聞かせ
—絵本の読み方・選び方—

講師：対馬 初音氏
(小学校司書)



本講座では、講師に対馬初音先生をお招きし、本の選び方を中心に、小学校での読み聞かせについて、お話いただきました。

対馬先生による読み聞かせや、受講生による読み聞かせの演習をもとに、絵本の読み方や子供の心によりそった「いい本」の選び方について、学ぶことができました。

【何のための、読み聞かせか】

学校での読み聞かせは、「子供たちが年齢別に一つの教室に集められ、読み聞かせを聞きたい子、聞きたくない子も全員強制的に聞かされる時間」です。子供たち、全員が満足する集団への読み聞かせの成功の8割9割は選書にかかっており、残りは練習です。まずは対象の子供たちがそれまでにどんな本を楽しんできたのかを知って本を選ぶ。その後、その本の把握ができるまで練習をし、お話としてもっていけるかどうか大切です。

何を読むのか、どうやって読むのかをしっかりと考えて読み聞かせをしていくように心掛けましょう。読み聞かせを始めたきっかけは人により様々ですが、「目の前の子供たちのための読み聞かせをしている」ことを忘れてはいけません。

【小学校での読み聞かせの特徴】

(1) 学校での読み聞かせ

学校とは、「子供たちが力を付け、力をの

ばすところ」です。読み聞かせをする方たちは、それを自覚する必要があります。一冊一冊の選んだ本が、対象年齢にあっているのか、子供たちの糧になるのかをしっかりと考えなくてははいけません。

(2) 保護者が求めることは

読み聞かせを行っている、という保護者の方は、1クラス1人か2人、多くても5人程度です。また、毎日本を読んでいるか保護者の方に訊ねると、一割ほどしか手は挙がりません。しかし、本と子供が仲良くなってもらいたいかを訊ねると、今度はほぼ全員が手を挙げます。

保護者の方は、学校や図書館を信頼しています。学校での読み聞かせにお楽しみ会を求めているわけではなく、いい本を読んでもらうことを期待しています。

(3) 読み聞かせのスキルアップ

読み聞かせ講座を受講しただけでは読み聞かせが上手になるわけではありません。読み聞かせができるようになるためには、実習をし、それを講評してもらい改善することを、きちんと積み重ねていくことが大切です。例えば、1年に実習を3回位やり、それを3年続ければ少しできるようになります。読み聞かせができるようになるためには、とても手間暇がかかるのです。



対馬先生に二冊の絵本を読み聞かせしていただき、その本についてどう感じたかなどを、グループになって話し合いました。

『くんちゃんのはじめてのがっこう』

ドロシー・マリノ／作・絵

間崎ルリ子／訳 (ペンギン社) ~他

また、受講生2人による、読み聞かせの演習を行い、その後、対馬先生より講評をいただきました。



【本を選ぶ】

(1) いい本とは

読み聞かせに使えるいい本というのは、子供の心にそって、子供の視点で作られ、子供の心を満たしてくれる本のことです。

また、大人が登場する場合、大人は頼りになり安心できる存在として描かれていることも大切です。子供は社会的に弱いため、大人が助けてくれる存在として出てこない本は、子供にとっての救いがなく、小学校での読み聞かせにふさわしいとは言えません。また、大人や先生を馬鹿にする本も薦めません。

そして、しっかりしたストーリーと、それに合った読み聞かせにふさわしい絵であるということも、いい本の条件として欠かせません。きちんとした日本語で書かれた、物語にあった絵の本を選びましょう。

(2) 本を選ぶにあたって

子供はまだ、楽しい本を選ぶ力がありません。皆さんには、読み聞かせを通して子供と本を結ぶ懸け橋になってもらいたいと思います。「いい本」の多くはロングセラーです。しかし、多くの子供は、ロングセラーでも読んだことがありません。子供にとって、初めて出会う本はすべて「新しい本」です。

もちろん、ロングセラーだからといって必ずしも読み聞かせに向くいい本だとは限りませんので注意が必要です。読み聞かせは、子供たちにとっての大事な経験の積み重ねになります。間違いないと思える本を選びましょう。

【読み聞かせ】

(1) 読み聞かせをする前に

本を選んだら、子供たちがその本をどう楽しむのか、を考えます。そして、話の動き出しや、構成、物語のストーリーに合わせて気持ちのせていき、書いてあるとおりにお話を読めるよう練習をします。声に出して10回は練習をしましょう。また、新しい本は開きにくいので、読み聞かせを行う前に、めくりぐせを必ずつけましょう。

(2) 本の持ち方・読み方

横書きの本は右手で、縦書きの本は左手で持ちましょう。聞き手と本が平行になるよう、本の真ん中を真っ直ぐに持ちます。

主役は、読み手ではなく、本です。本の読み方は工夫をするのではなく、本の求めるままに物語を読んでいきます。文字をただ追ったり、声色をつかったりするものではありません。クライマックスや会話に注意し、お話の流れにそって読み手も気持ちを動かし、それを声にのせて読んでいきます。登場人物の体の大きさ、老若男女、状態などにより、読み方やスピード感・間も変わってきます。語尾まではっきり読むよう心掛けましょう。

(3) ボランティアの心得

教室の席のままではなく、一か所に子供たちを集めてもらった方が読みやすいです。

声は、後ろの壁から跳ね返った声で自分で聞こえるくらいが目安です。

また、授業に関係するような本は、いつ何を読むのか、担任の先生とよく相談することが大切です。

プログラムは、ボランティア同士で調整しましょう。学年や発達段階に応じたプログラムを組めると理想的です。

(記録：埼玉県立久喜図書館 中村 由美)

わらべうた講座

「赤ちゃんとのしむ 絵本とわらべうた」

講師：落合 美知子 氏

（「おはなしとおんがくの
ちいさいおうち」主宰）

本講座は、保育園・幼稚園・児童館や図書館等で、子供たちとわらべうたを楽しんでいる方々にご参加いただきました。

近年、電子メディアに囲まれた環境の中で、赤ちゃんと触れ合うことば（肉声）やあやし眠らせる子守唄、わらべうたが希薄になってきました。

なぜ、今、乳幼児にわらべうたが必要なのでしょう？赤ちゃん対象のわらべうたを実践（体験）し、絵本を楽しみながら赤ちゃんへのまなざしを深め、子供と本を繋ぐサービスや子育て支援に役立てていただく講座でした。

落合先生から、わらべうたの研究に基づいた以下のようなお話を伺いながら、わらべうたの理論と実践を学ぶことができました。

1 赤ちゃんと肉声で触れ合う

赤ちゃんは声（肉声）が好きです。赤ちゃんも声を出して触れ合いを求めます。声の触れ合いは、人との絆や心を育みます。赤ちゃんに子守唄やリズムのよい声を掛けてあげましょう。

- ♪ねんねんね山のこめやまち（子守唄で）
- ♪ととけっこう（目覚めに）
- ♪おちゃをのみに（こんにちは！さようなら）
- ♪このここのこ（抱っこして揺すって）
- ♪こどもかぜのこ♪おせよおせよ（季節のうた）



2 乳幼児がはじめて出会うことば

－ 子守唄、わらべうたによる関わり

赤ちゃんはいのちの歴史をたどって生まれてきます。お腹の中にいる時から、お母さんの声を聞いています。そして生まれてからは、人との関わりを通してことばを獲得しています。わらべうたや絵本の読み聞かせの心地よいことばで愛情を感じながら成長していきます。

*わらべうたの世界

わらべうたの世界は「マジック・アンド・ミュージック」（ハーバート・リードのことば）です。つまり、耳に快く響き、口にすると感じよく、言葉に力があります。

参加者は以下のようなわらべうたを体験しました。

（コミュニケーション・応答）

赤ちゃんへの語りかけのことば♪べろべろばあ（能動的な関わり、模倣が出来る）

♪いないいないばあ ♪ちょちょち あわわ（遊び）

♪にんぎにんぎ ♪にっころにっころ（身体性）

♪いもむしごろごろ

（想像、創造）

♪にぎりぱっちり

*赤ちゃんが求めているもの

わらべうたは、次のような赤ちゃんが求めているものに答えることができます。

- ・母語（母乳（ミルク）と同様に）一心と体のたべもの
- ・愛情—まなざし、五感への贈りもの、安心感（抱っこなど）
- ・あそび—たのしむ、よろこぶ、応える、能動的、想像・創造力

3 わらべうた、子守唄とは？

わらべうたは子どもが自ら歌い、または、大人に歌ってもらいながら、伝承してきたうたです。(唱えのことば、子守歌も含むものとします)

ことば— 口承、コミュニケーション、母語の特性、詩の世界

遊び— 主体的、身体性、社会性

音楽— 鼓動・リズム、日本の伝統音階、音域を伴って、風俗・習慣、地域性などが織り込まれている。

4 赤ちゃんおはなし会

赤ちゃんの言葉の環境を整えるには、まずお母さんたちに、声を出すと気持ちが良いのだということを理解してもらう必要があります。図書館での赤ちゃんおはなし会は、言葉との出会いを作る大切な機会です。

* ようこそ赤ちゃん！

赤ちゃんと身近な人をあたたかく迎えましょう。

* 場の準備

危険のないように(動きまわる、口に入る細かいものに注意)入り口、窓などを確認しましょう。

赤ちゃんと身近な人が安心して参加できて、日常に取り入れて楽しめるように心がけましょう。

* 絵本・わらべうたを選ぶ

絵本はリズムの良いことばやあたたかみのある絵、扱いやすい形などを、繰り返し楽しめるものが良いでしょう。わらべうたと絵本には、ことばや型・スタイル、リズムなどの文学的な共通性があります。「センス・オブ・ワンダー」(レイチェル・カーソン)つまり、赤ちゃんが神秘や不思議さを感じ、五感の働く絵本やわらべうたを選びましょう。

* 図書館での赤ちゃんおはなし会

・言葉との出会い・獲得

- ・自然・人とのコミュニケーション(絆)
- ・読書の基盤
- ・本との出会い
- ・図書館の扉を開ける
- ・継承の場、たのしい世界
- ・いのちを育む

* おはなし会の型

『乳幼児おはなし会とわらべうた』(落合美知子/著 児童図書館研究会) 参照

赤ちゃんには繰り返しを大切に、おはなし会の型を変えず継続すると安心して参加できます。

<実践> 次のような型の例で実践しました。

導入のわらべうた・絵本

♪ ととけっこう

絵本『もうおきるかな?』

♪ おちゃをのみに

親子の触れ合い・季節のわらべうた

(抱っこ) ♪ このここのこ ♪ こーぶろこーぶろ

(目、顔合わせ、くすぐり) ♪ ここはどうちゃん

(膝上遊び) ♪ うさぎうさぎ

絵本『あーそーぼ』

(布遊び) ♪ にぎりぱっちり ♪ ちゅっちゅこっこ

♪ ひらいたひらいた

終わりの絵本・わらべうた

絵本『ひよこさん』

♪ おやゆびねむれ(指をねせる)

♪ さよならあんころもち

※おはなし会の記録をつけて、次の担当者が同じわらべうたを入れる等活用しましょう。

おわりに

参加者は和やかな雰囲気の中、わらべうたの理論を、一緒に歌ったり、遊んだりすることで実践的に体験できました。先生の日頃の体験に基づくお話は、参加者にとって、とても貴重なものでした。ここで学んだことを各自が現場で伝えていこうという気持ちを感じられました。(記録：埼玉県立久喜図書館 太田 ありか)

こどもの本のひろば

よもう！つくろう！

こどもの本のひろば

今回の「こどもの本のひろば」は、「つくろう！」の時間を新たに設け、ワークショップをしました。「おはなし会」と「おすすめの本」の展示は、昨年と同様ですが、子供だけでなく、大人も大勢参加していただきました。

【ワークショップ（午前の部）】

午前のワークショップは、そらべあ基金の皆さんにご協力いただき、「環境ワークショップ ソーラー LED ランプ工作」を開催しました。この講座は、「図書館と県民のつどい」では初めて子供向け講座として事前申込をして参加していただきました。

まずは紙芝居で、北極の氷が溶けてお母さんと離れ離れになり、涙を流しているホッキョクグマの兄弟「そら」と「べあ」から環境問題について学び、その後「ソーラー LED ランプ」を作りました。マスキングテープを貼って、それぞれかわいいランプを完成させてお持ち帰りいただきました。1回 20分間で3回講座を開催し、5才から小学生を対象として 32 人の子供たちが参加してくれました。



「ソーラー LED ランプ」

【ワークショップ（午後の部）】

午後は「浦和子どもの本連絡会」の皆さんにご協力いただき、「ひらひらプロペラ」と「とんでけポーン」を作って遊びました。



「ひらひらプロペラ」 「とんでけポーン！」

「ひらひらプロペラ」は折り紙とわりばし、たこ糸で作ります。上下に動かすと折り紙で作ったハネがくるくる回って、みんな大喜び！さらに二段重ねのハネをつけて、上下逆回転もやってみました。

「とんでけポーン！」は、わりばしと輪ゴム、洗濯ばさみで作ります。ペットボトルのキャップにボールを乗せて、洗濯ばさみをバネにして「ポーン」と遠くまでボールが飛んでいきました。

どちらも身近な材料で簡単に作れて、子供たちに好評でした。

また、来場した大人の方たちも、子供たちと同じように楽しく作っていただきました。

会場入口では、しゃぼんだまの本の展示や、今までに文庫等で子供たちと作った作品を展示しました。どの作品も簡単そうなのに不思議で、面白くて、子供だけでなく大人も興味津々。「どうしてこうなるの？」など、質問された方も多かったです。



【おはなし会】

今年は「桶川子どもの本の会」の皆さんによるおはなし会を12:00と13:00の2回開催しました。

あらかじめ用意していたプログラムの絵本・おはなしのほかに、当日の子供たちの様子を見て、絵本やおはなしを追加してもらい、大人も子供たちも楽しそうにお話を聞いていました。

当日のプログラム

- ①えほん おふろだいすき
えほん きらきら
おはなし おいしいおかゆ
- ②えほん こいぬがうまれるよ
えほん サンタクロースのおてつだい
おはなし おおかみと七ひきの子やぎ



【本のひろば】

赤ちゃんから小学生までの子供たちにお薦めの絵本と本を約50冊展示しました。特に大人は「懐かしい。子供が小さい時に読んであげた。」「子供の時、読んでもらった。」等の声が多く聞かれました。

ある大学生は、『めっきらもつきらどおんどん』の絵本を手に取り、もう一度読みたかったけど、ずっと絵本のタイトルがわからなかった絵本に再会できたと喜んでいました。

会場では久喜図書館で作成した冊子『いっしょによんで！親子のふれあいえほんばこ』と、「わたしたちのおすすめするこどもの本ベスト100」小学1年生・2年生編、小学3年生・4年生編、小学5年生・6年生編を配布しました。



【おわりに】

「県民のつどい」なのに、子供たちが参加できる企画がない！ということで、3年前から始め、少しずつ拡大してきた「こどもの本のひろば」。

参加者の数も少しずつ増えてきました。来年も是非子供たちが楽しんでもらえる企画をしたいと思います。

こどもの本のひろば入場者

大人：182人

子供：78人 合計260人

(記録：埼玉県立久喜図書館 高野 治子)